

実用準天頂衛星システムの開発・整備・運用

平成25年度補正予算額14,820百万円 平成26年度予算額12,499百万円
(平成25年度予算額10,555百万円)

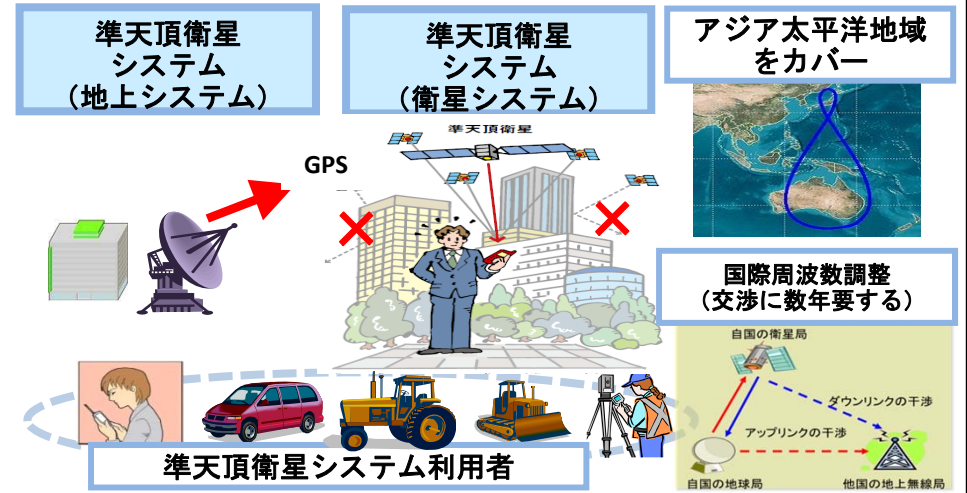
- ①実用準天頂衛星製作等経費 (平成24年度～28年度(5年国債))
- ②実用準天頂衛星運用等経費
- ③実用準天頂衛星打上げ経費 (平成25年度～29年度(5年国債)) 別計

事業概要・目的

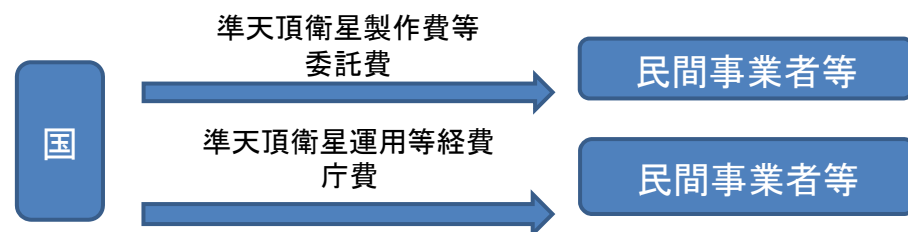
- 測位衛星の補完機能(測位可能時間の拡大)、測位の精度や信頼性を向上させる補強機能やメッセージ機能等を有する実用準天頂衛星システム※を開発・整備します。
 - 開発・整備・運用に伴い、①準天頂衛星システムの運用に必要な周波数の獲得に向けた衛星運用国との周波数調整(国際周波数調整)を行うとともに、②全体の事業管理に係る技術的アドバイザー業務、③利用促進に係るアドバイザー業務等を行います。
- 「実用準天頂衛星システム事業の推進の基本的な考え方」(平成23年9月30日閣議決定)において、
- ①実用準天頂衛星システムの整備に可及的速やかに取り組む
 - ②2010年代後半を目途にまずは4機体制を整備し、将来的には持続測位が可能となる7機体制を目指す
 - ③実用準天頂衛星システムの開発・整備・運用は、準天頂衛星初号機「みちびき」の成果を活用しつつ、内閣府が実施することとされています。

事業イメージ・具体例

- 衛星3機の開発・整備・運用を行います。
- 国際周波数調整、衛星と地上の両システム間連携、準天頂衛星に対応した受信機の標準化等を行います。
- 地上システムの整備・運用は、民間資金を活用したPFI事業で行います。



資金の流れ



期待される効果

- 産業の国際競争力強化
- 産業・生活・行政の高度化・効率化
- アジア太平洋地域への貢献と我が国プレゼンスの向上
- 日米協力の強化
- 災害対応能力の向上等広義の安全保障

実用準天頂衛星の打上げ経費

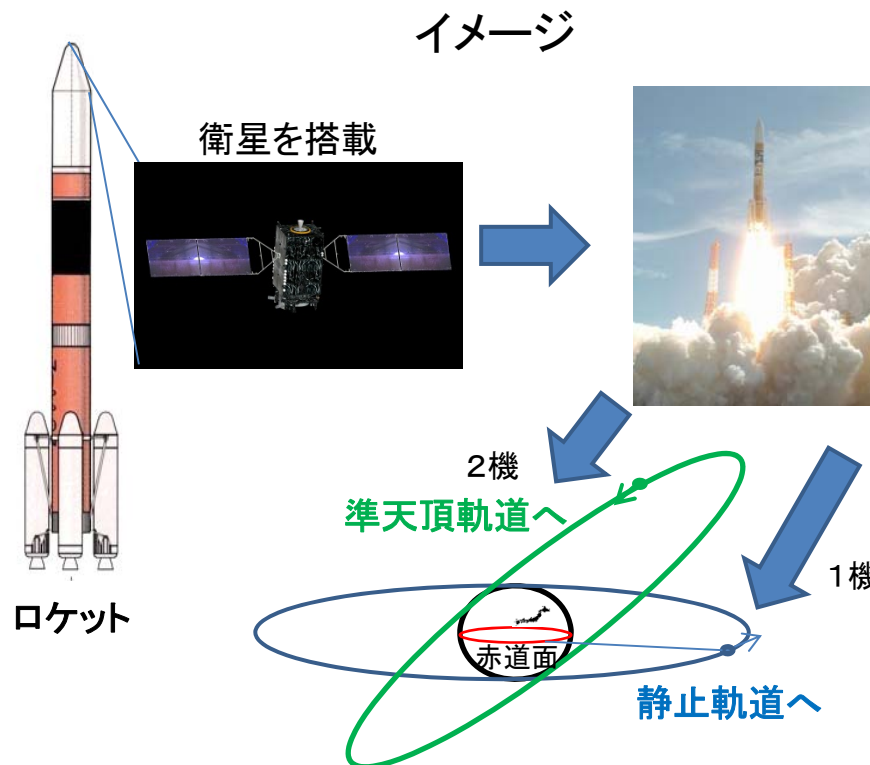
平成25年度補正予算額14,820百万円
平成26年度予算額3,000百万円

事業概要・目的

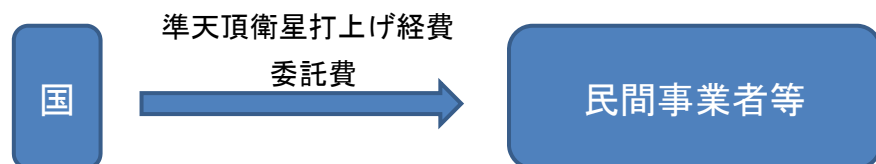
- 測位衛星の補完機能（測位可能時間の拡大）、測位の精度や信頼性を向上させる補強機能やメッセージ機能等を有する準天頂衛星を打ち上げます。
- 準天頂衛星初号機「みちびき」は平成22年に打ち上がっており、2～4号機は平成28年度から29年度にかけて順次打ち上げを予定しております。

事業イメージ・具体例

- 準天頂衛星システムの衛星を準天頂軌道等に乗せます。



資金の流れ



期待される効果

- 産業の国際競争力強化
- 産業・生活・行政の高度化・効率化
- アジア太平洋地域への貢献と我が国プレゼンスの向上
- 日米協力の強化
- 災害対応能力の向上等広義の安全保障